

主がパウロに向けて語ったみことば「わたしの恵みは、あなたに十分である。」とありますが、単に困難があってもそれに甘んじていれば神が助けてくれるという消極的な発想で語られているということではありません。

この「十分」と訳されている言葉は、ギリシャ語本文でも「質、量ともに十分に満たされている」という意味の言葉です。その言葉の意味から考えますと、「足れり」とは「どんなに苦勞と苦難におとしいられ、どんなにか大変な中を通っていたとしても、あなたは私の恵みによって十分に満ち足りるはずなのだ。」という意味合いとなっていきます。

ですから、この「我がめぐみ、汝に足れり」とは、私たちに何か困ったことがあったとして、その困難に甘んじている、我慢しているということでは決してないのです。むしろどんな時でも神の恵みは私たちに十分に整えられていることに気づきなさいという意味として受け止めるべきことではないでしょうか。ここで私たちが目を止めねばならないことがあるとするなら、主が言われた「わたしの恵み」とは何かということなのです。この「わたしの恵み」とは、9節後半にある「わたしの力は～完全に表れる」と言うことと密接な関係にあります。

かつてアブラハムが息子イサクを捧げることがを神に要求された時、アブラハムは息子イサクを捧げるべく神に近づき、神は彼の信仰を見てイサクの代わりに羊を用意されたことにちなんで「主の山には備えがある」と聖書は語ります。

つまり、私たちの目に前に起きている困難と悲しみと苦しさがあったとしても、私のために私がそのことに気づいてはいなくとも神がすでに必要な備えをしてくださっているということではないでしょうか。今、私は弱くされていても、主の恵みの中で憩い、その憩いの中から力をいただいて雄々しく歩むことができることをパウロは語っているのです。伴天連追放令が出されても、高山右近は大名である身分を捨てて、主イエスにお従いする生き方こそ価値あるものだと決めたのです。

「弱い時に私は強い」と告白したパウロの信仰に倣う者として今日もみ前に歩ませていただきましょう。申命記33章27節に「とこしえにいます神は住みかなり、下には永遠の腕あり」とあります。神の腕があなたの下にすでに敷かれているということ、あなたは信じることができますか？